

NPO法人大山中海観光推進機構（大山王国）活動概要

<ア 会員数>

・現在の会員数（男女別）：男 10名、女 0名、計 10名

<イ 設立の主体> 広域観光に携わってきた民間事業者が主体になって設立

<ウ 設立の経緯とその後の変遷>

大山中海を中心とする鳥取県西部から島根県東部の広域エリアでは、自然、歴史・文化、アクティビティ等々、数多くの「リゾート・観光要素」を有しても、これら資源が有機的に繋がっていないのが大きな課題であった。その課題を克服するために広域観光に携わってきた民間事業者が発起して、H17年にNPO法人「大山中海観光推進機構」を設立した。

行政組織の大山山麓観光推進協議会の広報事業（ホームページ）の実施団体として事業を始め、観光活性化に向けての関連事業（大山ミュージックリゾート、エコツーリズム、大山パークウェイ事業等）を次々に企画、実施を進めた。鳥取県西部地区だけでなく、島根県東部地区にもネットワークを広げ、山陰文化観光圏指定の基礎を築く。

<エ 主な活動>

ホームページによる情報発信事業（大山王国HP、山陰ポータルHP“神々のふるさと山陰”、ジゲ風呂（地域ブログ）、800名参加のメーリングリスト運営など）。

隔月発行の地域情報紙の発行、山陰広域マップ（山陰遊悠絵図）発行など紙媒体での情報発信事業。大山ミュージックリゾート（大山王国夏至祭など）音楽を通じての地域活性化事業、エコツーリズムなど体験型の観光プログラム企画運営事業。

<オ 主な活動地域> 鳥取県西部地域、島根県東部地域

2 取組の概要

①取組の内容及び②取組の状況

(1) 情報発信事業

大山王国HP、山陰ポータルHP、じげ風呂、ML、地域情報紙、広域マップ等で情報発信実施。

大山王国HPは開設して十年経過し、観光情報や地域情報を日々更新中。

日々更新される地域の情報は観光客はもとより、地元からも支持を受けている。

【大山王国HP】 ページビュー：約100万/年

【山陰ポータルHP】 ページビュー：約190万/年

【じげ風呂】 ページビュー：約1600万/年

【大山中海観光ML】 800人参加（地域の観光関係者、まちづくり関係者、行政、報道機関 など地域の活性化に関心のあるメンバーで構成）これまでにML上で1万3千件の情報交換。

(2) 大山パークウェイ事業（国の地方の元気再生事業）

昨年度、大山王国の提案した企画が内閣府の元気再生事業に採択され、9月から「大山パークウェイ事業」を実施。国立公園を縦断する道がこれまで一体的に紹介されることがなく、国内でも有数の絶景コースが観光客はもとより地元でも忘れ去られる状況であり、これが大山圏域の観光客減少の要因のひとつにもなっていたが、このルートに中心軸に置き「大山パークウェイ」と愛称をつけ、観光客の誘導を図った。今年度も継続採択され、単にルート沿いだけでなく、周辺の施設や取組をネットワーク化し、線から面への展開も進行中であり、さらに深化した事業を展開する予定。

※関連して、国土交通省のすすめる日本風景街道（湖水街道推進会議）にも積極的に関わる。

(3) 大山ミュージックリゾート事業

音楽を通じて大山のファンづくりに取り組んでおり「大山王国夏至祭・夕暮れコンサート」は今年で十回目の開催。この他にも、野外コンサート「大山ミュージックリゾート in 花回廊」を毎年秋開催（主催：山陰放送・花回廊）の企画協力。昨年度は5,300人の観客動員

(4) エコツーリズムなど体験型観光プログラムの企画、運営

大山・中海・隠岐エコツーリズム協議会を皆生温泉・大山を拠点にH19年に全国に先駆けて設立以来、観光と環境を融合させた「エコツーリズム」を地域に導入し広域連携で取り組んでいる。滞在型の観光地を目指し、エコツーリズムなど体験型の観光プログラムの企画運営を大山・中海隠岐エコツーリズム協議会と共同で実施。昨年度は同協議会の活動が高く評価され、環境省の「日本エコツーリズム大賞特別賞」を受賞した。

③ 成果

(1) 情報発信事業

【大山王国HP】

この取組が始まるまで、当エリアの広域での情報発信は皆無に等しく、地域の一体感を感じる事がなかった。このHPの熱心な情報発信、またこれをきっかけとするさまざまな企画実施により、地域の一体感の醸成が進み、地域を横断したストーリー展開は地域づくりに好影響。またこのHPを用いて、観光客向けのアンケート調査等を適宜行い、観光振興及び地域活性化に有益なデータの蓄積及び分析を行っている。

【山陰ポータルサイト“神々のふるさと山陰”】

鳥取島根の官民による中海宍道湖大山圏域観光連記事業推進協議会からの委託により、当NPOが企画運営したもの。大山王国HP同様に熱心な情報発信の取組、圏域全体を横断するストーリー展開は、両県の連携に大きな影響を与えた。この取組により山陰文化観光圏、そして定住自立圏の指定につながった。

【じげ風呂】（ブログサイト）

SNS、ブログと呼ばれる個人レベルでの情報発信が若者を中心に広まっており、地域のまちづくりに携わる若者たちを巻き込む形で普及を目指し、現在約2500名が参加する地域ブログサイトを開設した。現在アクセス件数もケタ違いで、爆発的な地域情報発信の仕組みとなっている。またまちづくりに必要な各地域の仲間づくり促進にも、大きな効果を生み出している。

【大山中海観光ML】（メーリングリスト）

8年間にわたり運用され、これまでに15千件の情報交換があった。毎朝、運営者の当NPOが大山王国ニュースフラッシュという形で地域情報をサマリーにして情報提供をしている。これを機に、さまざまな議論がネット上で起こり、参加者全員で共有されていく過程の中で、このMLで話題になったもの、発生したプロジェクトが新聞、テレビなどで報道され、一気に圏域の市民に周知されるなど、このMLから始まった地域活性化のプログラムは数知れず。

【地域情報紙「SEE!」】（フリーペーパー）

隔月に発行する地域情報紙。現在はA4カラー4Pで4万部発行（無料配布）。大山圏域にとどまらず、島根県東部の情報も一体的にまとめ、多くの読者に支持されている。これも地域の一体感を醸成するツールとなっている。現在は中海市長会に協力をいただき発行。

【広域マップ「山陰遊悠絵図」】（県境を超えた広域エリアマップ）

大山王国が主体となって取組む手描きによる大山中海宍道湖圏域のマップ「山陰遊悠絵図」毎年20万部以上発行で、観光客はもとより地元にも大変好評を得ているマップ。これまでの常識を超えた斬新な内容で、当圏域に対する見方を大きく変えるきっかけとなり、このマップは山陰文化観光圏を先導する役割を果たした。構想、企画、デザイン、広報、営業などすべてをNPO大山王国が手がけるものであり、この圏域における地域活性化のシンボリックなマップになっている。

（2）大山パークウェイ事業

この構想は、これまでにない斬新なもので、座標軸を置くことによって地域の特徴をクリアにする役割もある。今後も当事業は、地域活性化策の中心軸として、官民一体で設立された大山パークウェイ協議会と当NPOが協働で展開する予定である。

（3）大山ミュージックリゾート事業

大山エリアの活性化は「徹底したリピーター創出」ということで、当初から大山のファン作りを目指して活動をしてきたが、その中心的な事業がこの大山ミュージックリゾート構想。上質な音楽が楽しめるリゾートとして、大山の野外空間などを中心に、10年間にわたって音楽の取組を進めてきた。小室等、尾崎亜美、小原礼、櫻井哲夫、大工哲弘、ザ・ブーム、夏川りみ、吉川忠英、伊勢正三、大江千里、杉田二郎、中村あゆみ、太田裕美、大野真澄、ムッシュかまやつ、山本潤子、南こうせつ、イルカ、紙ふうせん、ばんばひろふみ、木村弓、デュークエイセス、ビリーバンバン、米良美一、千住真理子、浜田真理子など、毎年、山麓各所で多くのプロ、アマのアーティストによるコンサートを開催してきた。

演奏者は大山のパワーを感じ取りながら演奏し、聴衆は想いのこもった素敵な演奏に浸ることができる。これこそが大山ミュージックリゾート構想の核心部分である。なかでも大神山神社奥宮での米良美一さん、千住真理子さんのコンサートは格別で、米良さんはマイクを使わず“もののけ姫”を歌い出すと、深い夜霧が奥宮を包み、終わるとさっと晴れ「大山の神々の演出に違いないと思った」と表現された。また、千住さんは「大神山神社に足を踏み入れた時は荘厳な空気に圧倒され、しばらくたたずむしかなかった。心が清められる思いの中で演奏ができ、感動を胸にバッハを弾けたのはかけがえのない経験でした」とのコメント。

（4）エコツーリズムなど体験型観光プログラムの企画、運営

当地のファン作りをすすめるのに、自然を感じる体験型の観光プログラムの造成は大山王国にとっても重要な取組であり、「大山でのぶなの森ウオーク」など、人気のプログラムを企画。そのノウハウは当NPOも参画する「大山中海隠岐エコツーリズム協議会」に提供し、地域をあげての取組となり、今後も、その中心的な役割が期待されている。